

ナンバリング	科目名	サブタイトル	担当教員	配当年学期	単位数
112AH06	文学 A	文学から見る近代日本	玉置 文弥	1 年次前期	2
科目区分	基礎	キーワード	明治国家、悩み、戦争、橋川文三		
ディプロマポリシーとの対応	1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応	1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目	特になし				
オフィスアワー	授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。				
教員への連絡方法	教員の短大メールアドレス				
講義の目的	「文学」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。一見、「現実」とはあまり関係のないもののように思われるかもしれませんが。しかし実は「文学」は、例えば人々の精神的な悩みや政治・社会状況などの「現実」を、それぞれの時代に様々な形で表してきました。本講義ではその視点から、おもに近代日本に関する「文学」がいかにその姿を著わしてきたのか、そして近代日本の人々は何に悩んだのかを、現在と関連させて理解することを目的とします。				
到達目標	本講義では、近代日本について文学的視点から深く考えてきた、橋川文三という思想家の論考を中心的に扱います。それに触れることで、その内容や構造がどのようなものかを理解し、文学と政治の関係とはどのようなものか、近代日本とはどのような時代であったかについて。自分の意見・感想を持ち、内在的に考えることができるようになることを目標とします。また論考や文学作品を読む経験も味わってもらいたいと考えます。				
講義内容	橋川文三の論考を中心とした読解と、近現代日本の歴史や社会状況の解説、さらには夏目漱石『こころ』の映画鑑賞を中心として進めます。本講義では、多少難解な文章も取り扱いますが、それによって難しい理論や知識を暗記してもらうのではなく、その時代に自分自身が生きていたらどうだっただろうか、ということの内在的に考えるヒントにしてほしいと思います。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	ガイダンス	講義の全体像・ねらい・評価方法の説明と質疑応答		
	第2講	文学と現実の関係?	文学と現実の関係についての考察		
	第3講	近代日本とはどのような時代であったか?	明治から昭和戦前期の歴史の解説		
	第4講	橋川文三とは誰か?	橋川文三の紹介とその問題意識の検討		
	第5講	悩みとテロ	朝日平吾		
	第6講	明治国家の終わり	橋川文三「明治の終焉」		
	第7講	「明治の青年」たちは何に悩んだか①	橋川「序にかえて」(『昭和維新試論』)の読解・解説		
	第8講	「明治の青年」たちは何に悩んだか②	橋川「渥美勝のこと」前半の読解・解説		
	第9講	「明治の青年」たちは何に悩んだか③	橋川「渥美勝のこと」後半／「渥美の遺稿「阿保吉」の読解・解説		
	第10講	「明治の青年」たちは何に悩んだか④	橋川「青年層の心理的転移」の読解・解説		
	第11講	「明治の青年」たちは何に悩んだか⑤	橋川文三「樗牛と啄木」の読解・解説		
	第12講	「明治の青年」とはなにか①	夏目漱石『こころ』の映画(市川崑監督)前半の鑑賞		
	第13講	「明治の精神」とはなにか②	夏目漱石『こころ』の映画(市川崑監督)前半の鑑賞		
	第14講	繰り返す歴史?	これまでの講義を踏まえ現代と過去の共通性を考察		
第15講	まとめ	全回の振り返り			
指導方法	基本的には講義形式で行います。ただし、ただし、授業内・外で自分の考察・感想を書く機会や質問に答える機会があります。				
事前学習	毎回の講義で、講読する文章と箇所、および読解ポイントを示しますので、その点を中心に必ず事前に読んでください。1時間30分程度の学習時間を目安とします。				
事後学習	講義内容を振り返るために、講義ノートやレジュメ、配布テキストなどを読み直してください。1時間30分程度の学習時間を目安とします。				
成績評価方法	本試験(レポート)50%、平常点(授業内レポート)50%				
課題(試験・レポート)に対するフィードバックの方法	講義内において解説します。				
テキスト	橋川文三『昭和維新試論』、夏目漱石『こころ』を扱いますが、適宜解説するテキストを紙媒体もしくはデジタル資料などで配布します。				
参考文献	中島岳志・杉田俊介編『橋川文三―社会の矛盾を撃つ思想 いま日本を考える』(河出書房新社、2022年)				
実務家教員による授業	教員	経歴			
特記事項	学生の興味・関心や進度に応じて、講義内容が前後したり内容が変更される場合があります。				